

かみかわ町議会だより



「植竹サマーフェスティバル」(日枝神社境内)

(撮影者「フォーカス友の会」高柳 智子さん
新井 広彦さん)

今年で26年目を迎える夏祭りが、子供たちの夏休みに合わせ、平成27年7月25日(土)に行われました。当日は子供御輿から始まり、神川豊穰太鼓の演舞、カラオケ、盆踊りなどが行われ、そして何より「焼きそば」や「かき氷」「金魚すくい」など約10の出店にたくさんの人だかりができました。最後に抽選会が行われ、約700人の地域の皆さんが楽しい一夜を過ごしました。

<主な内容>

- 平成27年度神川町一般会計補正予算(第4号)を修正可決
- 神川町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例などを可決他

議会を傍聴しませんか

第1回定例会は3月8日(火) [午前9時~] 一般質問等から18日(金)を予定しています。

編集 神川町議会運営委員会
発行 埼玉県児玉郡神川町議会

〒367-0292 児玉郡神川町大字植竹909
☎0495(77)0707 <http://www.town.kamikawa.saitama.jp>



定例会のあらまし

平成27年第7回神川町議会定例会は12月8日から16日までの9日間の会期で開かれ、町政に対する一般質問が行われたほか、町長から提案された平成27年度神川町一般会計補正予算ほか18議案、議員提案が1件、また、陳情7件などが審議されました。

町政に対する一般質問

一般質問は、12月8日に行われ、6名の議員が町長をはじめ町当局の考えを質問しました。概要は次のとおりです。



滝沢 邦利 議員

町の経済活性化策について

◆道のオアシスの有効活用及び神川ブランドを通じた経済活性化策と民間団体の育成及び支援について

合併10周年を機に、町のビジョン、グランドデザインを作成すべきと考えます。地の利を活かし、コンセプトを「埼玉梨街道と特産品のあるまちづくり」とし、国道254号線沿いの道のオアシス「ありの実」と神泉の道のオアシス2箇所のプラザ化で町のブランド品を直売する

答え 町長

◆きめ細かな支援を通じ、農業をはじめとした町の経済活性化を図ります

ためのブースを設置し、町の経済活性化を図ることについて伺います。また、それには担い手となる民間団体の育成と支援が不可欠で、パティシエ、シェフ、創作料理人などのプロを育成し、オーガニック野菜の生産をはじめ、時代に即した食品・工芸品など新感覚の神川ブランドを開発することが急務です。東京や海外輸出向けの製品開発に女性が発揮できる環境整備や女性農業者の育成も必要です。20代から30代の将来を担う人材を集めるには、独立支援や住宅斡旋なども必要と思われます。今こそ行政主導による経済活性化策を実行すべきと考えますが見解を伺います。

町内2箇所の道のオアシスは観光地に向かう方々や流通業者の休息地として、埼玉県が設置した施設で、町では民間事業者に貸与し、事業運営が行われています。道のオアシス神川では、地場産食材を利用した料理の提供や、隣接のJA農産物直売所やフリーマーケット主催者と連携したイベントを行っています。道のオアシス神泉では、地元の農産物や特産品の薬膳うどんを入口付近に移設し、また、レストランを川沿いに配置するなど店舗をリニューアルし、集客アップにつとめています。



道のオアシス神泉



道のオアシス神川

町のブランド品としては、菓膳うどんやキムチ、姫豚などがあります。今後とも、農業団体や生産

者、新規就農者等へきめ細かな支援を維持しながら、町の経済活性化を図ります。

観光事業の推進について

◆神じい、なっちゃんを活用した町のPRについて

観光地の看板や文化財指定場所への誘導看板等にマスコットキャラクターを活用し、露出度を高めるとともに歩いて楽しむ神川マスコットキャラクター看板探検ラリーのようなイベントの開催について伺います。マスコットの戦略的活用により町の知名度を高め、観光客の誘致が図れ、官民一体となった活動が期待できます。

また、町内外の企業や組織に協力を得て、マスコットキャラクターの名入れ看板のスポンサーを募り、児玉郡市に展開するのも一つの方法だと思います。役場に隣接した場所に多目的広場を創設し、児玉郡市内のアーティストや芸能人などを集い、導入を考えているFM放送局と共催、協力を得て、広域的に人が集い賑える観光事業や文化事業イベントの開催について伺います。

答え 町長

◆これまで以上に商工会や観光協会と協力連携しPRします

町のマスコットキャラクターである神じいとなっちゃんは、町内をはじめ県内外で行われるイベントへの着ぐるみによる出演や貸し出しのほか、多種多様な媒体への



成人式での「神じい」「なっちゃん」

掲載、道路の飛び出し注意看板や、城峯公園、金鑽神社のキャラクター入り看板等に活用しています。また、総合戦略の中で、主要道路沿いに町をPRする大きな看板の設置も検討しています。祭りやイベントについては、既にコスモスマつり、冬桜まつりをはじめ数多くの行事があり、その中でもPRも継続して行っています。このほ

か神じいは振り込め詐欺防止大使、なっちゃんは交通安全大使として委嘱され、児玉警察署管内で幅広く活躍をしています。今後「神じい・なっちゃん」を有効活用し、町のPRにつながるよう、これまで以上に商工会、観光協会と協力連携しPRしていきます。

教育の充実について

◆幼保小中一貫した教育の推進と高校、大学への通学環境整備について

平成28年度から制度として施行される小中一貫義務教育学校についての考えを伺います。一貫性ある教育を推進する際、町で計画中の認定こども園の教育方針の中に、小中に通じる実用的な英語教育、音楽、絵画等の心を豊かにする情操教育及び国際人としての素養を身につける工夫されたカリキュラムなどを通し、バランスのとれた人材づくりに取り組むことが必要と考えます。

通学環境整備については、本庄経由で高校、大学へ通学する際の安全なバス停の整備と朝日バスの増便をお願いし、利便性を高め、高等教育に熱心な町として保護者が安心して子育てができる人気の文教地区を構築することが、町として重要課題と考えますが、伺います。

答え 町長

◆通学環境は現状を維持します

現在、学生の通学手段は公共交通の八高線及びバスがあります。バス路線は、朝日バスが運行する本庄駅南口から神泉総合支所停留所までと、町営バスの神泉総

合支所から冬桜の宿神泉までの2路線があります。どちらのバスも1時間に1本程度の運行で、利便性が十分とは言えず、朝日バスに對し、利便性の向上を要請しましたが、近年では近隣高校の多くが通学用バスの運行を始めたことなどにより利用者が減り、運賃収入だけでは運行ができない状況です。朝日バスから路線廃止の提案も出されましたが、町では存続を強く要請し、関係市町が補助金を交付し運行を継続していただいています。現状維持を優先していかねればならず、路線バスの増便は厳しい状況です。

安全なバス停につきましては、現在、神川中学校入口付近に新たなバス停を建設予定です。

答え 教育長

◆よりよい学校教育の実現に向け幼保小中の連携を深めます

町では、保育所と幼稚園、小中学校が連携した教育を推進しています。具体的には、保育所や幼稚園と小中学校の子供たちとの交流、

保育所と幼稚園、小中学校の教職員を対象にした教育講演会や合同研修会、各学校の研修会に幼小中学校教員が参加できる、オール神川研修会を実施しています。

国では、平成28年度から小中一貫教育を実施する義務教育学校が創設されることになりました。町でも、保育所と幼稚園を統合した認定こども園の設立を検討しており、メリットを生かしながら小中学校との連携を強化していきたいと考えています。今後も国の動向を注視し、町内を1つの文教地区として捉えた神川町にふさわしい教育について検討していきます。



神川中学校バス停建設予定地



廣川 学 議員

増加する町内の空き家について

◆空き家調査や政策について

増加する町内の空き家について、昨年「空き家対策特別措置法」が成立し、それによって12月定例会において町内の空き家対策について質問しました。成立したばかりでしたので、町としても空き家を把握することを急いでいる印象でした。あれから1年経ちましたが、刻々と変化する町内の空き家事情を把握できているのか伺います。

そして、具体的な町の施策について、各自治体では、いろいろな取り組みを行っています。町の施策として今後、どのように進めていくのか伺います。空き家が出てくることで町民の不安も増えてきますので、その不安を解消するための、具体的施策について伺います。

答え 町長

◆調査は現在とりまとめ中であり、政策は所有者の意向も踏まえ、有効活用等総合的な計画を検討します

現在は空き家実態把握のため、行政区長と環境衛生推進委員に空き家の情報提供を依頼しており、同時に、町内在住職員による居住実態の不明な家屋等の調査を実施しています。今後は国のガイドラインに基づき、特定空き家等の判定基準を設置し、立入調査等を行い、基準に照らし合わせ、適正管

理の空き家か、また住民の生活環境に悪影響を及ぼす特定空き家なのか等の仕分けを実施していく予定です。

具体的な施策については、危険度が高い等の理由により特定空き家に判定された場合には、建物の除去や解体を前提とした取り壊しに対する補助制度などが考えられます。一方で、指導等を聞き入れていただけない場合は、法律に基づく行政処分の対象になる場合があります。一般的な空き家においては民間業者と提携し、空き家バ

ンクや空き家リフォーム補助の創設など、使用可能な空き家としての活用が考えられます。今後の政策は、所有者の意向を踏まえ人口減少対策なども含めた総合的な計画の中で検討します。



川 浦 雅 子 議員

町内巡回バスについて

◆公共交通不便地域の交通手段確保と福祉向上目的による巡回バスについて

認知障害や高齢に伴う身体機能低下の自覚等での運転免許証返納に対する受け皿として、町内巡回バスは必要と思われます。また、高齢者に限らず、健康、環境、地域活性、観光、交流など、地域の課題に目を向け、住民の福祉向上につながるであろう様々な観点から、町内巡回バスの運行を望むものです。町長の考えを伺います。

答え 町長

◆既存の路線バスの存続とあわせ、様々な手法について引き続き検討します

高齢者や障害者など交通弱者と言われる方々の移動手段の確保は、多くの自治体がコミュニティバスの導入などの取り組みを行っていますが、経費や効率面から、対応に苦慮しています。利用者が少なく、費用に見合った効果が上がっていないことや、バス停まで自分で行けない人の対応等も課題となっています。

町でも、平成25年11月から平成26年3月まで、神泉地区でデマンドタクシーの試験運行を行いました

自治体への懇談要請について

◆団体懇談要請に応じない町の姿勢について

埼玉県内、神川町以外の各自治体では、住民や中小業者の代表と直接意見交換をする懇談の要請に対し、業務多忙の中、時間をつくり対応しています。住民の要求、要望、切実な生活実態など、熱心に聞き、わずかな時間ですが、しっかりと住民と向き合っています。住民の要望が直接わかり、それに沿って施策を講じられると言ってくださる職



町営バス

たが、コストに見合う利用者の確保等ができませんでした。本年度より運転免許証を持たない65歳以上の高齢者を対象にしたタクシー利用料金補助事業を開始しました。今後も町民の主要な交通手段である既存の路線バスの存続とあわせ、様々な手法について引き続き検討します。

員もいる他の自治体もある中、一切応じないとする神川町の姿勢をただし、住民の代表の声を直接聞く場を作っていただけか伺います。

答え 町長

◆課からの文書回答やホームページなどによる相談に応じます

現在町には自治体キャラバン、本庄民主商工会、埼玉労働組合連合会から懇談の要請が寄せられています。懇談につきましては、平成25年度まで団体からの要請に基づいて関係課長のスケジュールを調整し、懇談を実施してきました

が、各団体の希望する懇談日程と関係課の業務との調整が難しく、平成26年度より文書回答形式のみとしました。個々の要請項目につきましては関係課所への質問や確認も可能で、今まで以上に真摯に対応します。直接懇談することにより、お互いの生の声が聞けるという点については理解しています。要請項目に対する回答内容を直接担当課に確認できる環境であることや、ホームページ等によるご相談も実施していることなどを考慮し、今後も現状を維持します。



柴崎 愛子 議員

環境整備について

◆町内の公園・神社・お寺等の外トイレの設置について

現在、神川町には32ヶ所の野外トイレがあります。その内訳は、旧

答え 町長

◆管理上の諸課題を整理し、慎重に検討します

現在、町内には公園、道のオアシス、JR丹荘駅前、神泉地区のバス停など、大小合わせて32カ所に公衆用の外トイレが設置されています。利便性の向上や観光事業の活性化の観点から、外トイレの設置は必要であると認識しています。

新規の整備については安全面、衛生面の管理上の課題を整理し、大字の関係諸団体の意向も確認し

神泉地区に17ヶ所、旧神川地区には40ヶ所の公園等に15ヶ所あるのみで少ない状況です。その中でも中新里ゲートボール場は、年間170日もグラウンドゴルフで使用している老人会があります。なぜここにトイレがないのか疑問です。男性の方に聞くと「それほど困っていない」と回答がある一方で、女性の方は「困っているんですよ、ぜひ造ってください」と答えが返ってきました。この言葉は何十年も前からの切実な声です。地域の子供たちや高齢者が集う場所に、外トイレは必要と思いますが伺います。

また、違う環境整備の観点から、神川中学校バス停整備計画にあわせ、トイレの設置が必要と思うと同時に、町の観光案内図に記載できるトイレの増設も必要と思いますが伺います。

て慎重に検討します。

また、中学校バス停のトイレ設置は今設計段階の中で、検討項目の中に入っています。



水辺公園外トイレ

子供たちの見守りについて

◆携帯・スマホを持たない日の普及について

子供たちはソーシャルメディアにより、ネット依存症やネットいじめ、不適切な発言によるコミュニケーション不全、見知らぬ者との出会いなどの問題が発生しています。思春期前後の子供たちを支援する体制が不十分な中で、彼ら、彼女らのリスク遭遇や生活の乱れの要因となっています。

これらのことは、一つの家庭の決まり事では難しく、学校、地域で一つの決まり事をつくらないと、大切な子供たちを守ることができません。そして、持たない日をつくることで、子供たち一人一人の気づきにつながれると思います。

町教育委員会の取り組みとして、始めていただきたいと思いますが、考えを伺います。

答え 教育長

◆家庭と協力し取り組みます

小中学校では、各教科等の中で情報モラルを身につける指導を行っています。また、県のネットアドバイザーを招き、子供安全見守り講座などを開催し、携帯やスマホの危険性や使い方、ルールづくりなどを保護者と児童生徒がともに学んでいます。さらに、各校においてノーメディアデーや、夏休みノーテレビ、ノーゲームデーなど家庭と連携した取り組みを進



めています。

また、毎月20日をふれあいの日として、家庭と連携して、携帯、スマホを使用しないこととし、家族の時間を大切にしていきたいと思います。今後も児童生徒が携帯、スマホに縛られることなく、睡眠時間や学習時間を確保できるよう家庭と協力し、健全育成に力を入れます。



落合周一 議員

町の活性化について

◆コミュニティFMによる町の活性化策や小規模団体に対する助成金及びリーダーの育成について

町の活性化を図るため、コミュニティFMを立ち上げる考えがあるようですが、意義や真意、詳細な計画及び立ち上げの費用、資金の調達方法、将来的なリスクマネジメント、放送対価について伺います。

次に、行政区とは関係のない人々、団体、個人が地域の活性化、またコミュニティ活動の活性化に尽力しようとしたとき、その企画や事業に対して助成金を出す施策について伺います。

また、地域の活性化、町の活性化には、どうしても地域をまとめ、引っ張っていく人材が必要です。町の活性化、豊かな心を持った人づくりの一つとして、子供たちの海外研修を復活させることについて伺います。

答え 町長

◆コミュニティFMは公設民営で運営し、小規模団体に対する助成金及びリーダーの育成策は総合戦略の中に位置づける予定です

コミュニティFMラジオは、希

—— ティを復活させ、地域の活性化を図り、また、災害時の備えとして

大きな役割を担うことを期待しています。

町は、行政情報の伝達手法のひとつとして活用したいと考え、動き出したところですが、運営は民間でないといふ許可が出ないため、町で設備に関する公設を担い、運営を民間事業者が行う、公設民営として推進したいと考えています。事業開始後は、行政情報の放送枠として放送委託料を支出することを考えています。メリットは住民誰もが参加できる住民参加による運営が可能で、デメリットは初期投資等に費用がかかること、創生の補助金等を活用することも一手法です。

小規模活動に対する助成は、総

合戦略の事業の中に盛り込みたいと考えています。

かつて中学生を対象に行っていた海外研修は、現在では廃止されています。人づくりの問題に關しても、総合戦略の中で中高生のアイデアやビジネスプランを募り、行政が支援して実現する事業として提案しています。人材育成は極めて重要な課題であり、より効果的な施策を展開します。



赤羽 奈保子 議員



ごみ減量の取り組みについて

◆ごみの削減や啓発及び環境教育について

町のごみの量は、増加傾向にあると伺いました。一人世帯が増え、コンビニやお弁当の容器が増えたのも一因としてあるようです。ま

答え 町長

◆分別収集等を通し、減量化や再資源化を奨励し啓発も行っていくます

ごみの削減については、一人一人が意識を持つことが重要です。町では、ペットボトルやアルミ、スチール缶、瓶類を分別収集し、資源ごみとして再資源化を実施しています。また、小型家電製品等にも関係しています。年2回拠点回収を実施しています。さらに、リサイクル活動推進奨励補助金制度を設け、各種団体でもごみ減量化、再資源化への取り組みを行っていただいています。啓発につきましては、年度当初にごみの分別方法や資源ごみの減量化について、毎戸配布を行っており、合わせて、広報や町のホームページにより周

た、家庭ごみの中には、買い過ぎで使い切れなかったもの、賞味期限や消費期限が過ぎて捨てられたもの、作りすぎや食べ残しなど、食べられるのに捨てられていた食品廃棄物が半量を占めています。こういった無駄をなくし、ごみを減らす取り組みを町は現在行っているのか、また啓発について伺います。

ごみを減らす取り組みの一環として、環境教育はとても大切だと思います。食べ残しをなくすことや、資源ごみのことなどを学ぶことも、家庭でのごみの減量につながるとは思いますが、町の取り組みについて、伺います。



小型家電製品等拠点回収

知し、ごみの削減に結びつけています。

環境教育につきましましては、本町でも小中学校、幼稚園、保育所の子供たちそれぞれに適切な量の給食を配食し、食べ残しを減らすための取り組みを行っています。今後も、作ってくれた人への感謝や、資源の大切さを教える環境教育を実施します。

学力向上への取り組みについて

◆放課後の活用について

町では学力向上の取り組みとして、オール神川で先生方の研修や指導力アップ等様々な事業を実施したり、神川中学校での補習授業等でのフォローもしてくださっています。熊谷市の「くまなびスクール」の取り組みを市内の中学校で視察しましたが、土曜日の放課後を使い、2時間を生徒それぞれが勉強をします。「くまなび」の指導は、卒業生で先生を目指している大学生や定年退職した先生、市内の大学生だそうです。家ではいろいろな事情で静かな環境で勉強できない生徒や塾に行きたくても行けない生徒のためにも、町でこのような取り組みを行う考えはあるか伺います。

答え 教育長

◆国や県及び他市町村の動向を見ながら、子供や各学校の実態に合わせた取り組みを行います

町では、立志教育と生き抜く力の育成をキーワードとし、学力、体力、生活力向上を目指した取り組みを行っています。家庭での生活習慣を育んでいけるよう、「神じいとの10の約束」あるいは「なっちゃんとの10の約束」を作成し、

宿題や予習復習についての約束を取り入れていきます。また、各学校において家庭学習の手引等を作成し、家庭学習の定着に努めています。

放課後の活用は、各学校の学区が広く、安全面への配慮から、小学校は集団での一斉下校を行っており、中学校も部活動を行っているため、実施は難しい状況です。ただし、中学校等では、2学期以降は3年生の自主学習として放課後学習に取り組んでいます。また、夏休み等に各小中学校ともに特別学習を行っています。今後とも国や県、他市町村の動向を見ながら、子供及び学校の実態を踏まえ、工

夫改善を進め、地域の特性に応じた取り組みを実践します。

※一般質問の全文は、議会事務局の会議録で閲覧することが出来ます。また、町ホームページでも閲覧出来ます。

議案審議の結果

12月定例会は、平成27年度の一般会計及び特別会計の補正予算、条例、陳情などが審議され、平成27年度一般会計補正予算（第4号）が一部修正可決となり、それ以外は原案可決されました。

予算関係

◎平成27年度神川町一般会計補正予算（第4号）

歳入歳出それぞれ5,794万3千円を追加し、総額を60億1,378万9千円とするもの。

○歳入に追加された主な項目

国庫支出金	1,063万8千円
県支出金	523万1千円
繰越金	3,507万5千円
諸収入	699万9千円

○歳出に追加された主な項目

※修正案による可決の概要について

総務費	1,685万4千円
民生費	2,496万4千円
衛生費	30万5千円
消防費	83万2千円
教育費	814万6千円
公債費	684万2千円

主な内容

F Mコミュニティラジオ開局に向けた電波調査委託料50万円の削除

提案理由

住民の方々の理解、合意が得られていない。（運営費用や財政負担等のマイナスイメージについて、一切住民に知らされていない。）

修正案に対する賛成意見

進め方が強引で場所によって答えが異なる。不確定要素が多く、住民の理解が十分でない。庁舎建設、認定こども園、公共施設、神泉中学跡地利用、診療所のあり方など多くの課題を先に解決すべき。事業そのものの効果や必要性に疑問あり。委託料等の金額の根拠が曖昧。経営難に陥った場合の説明がない。現在実施中の携帯情報メールやテレ玉のお知らせコーナーが十分に活用されていない。NPO法人の事業計画書や収支見積書の提出がない。

修正案に対する反対意見

事前調査なので認めるべき。ア

ナログ電波のチェックもでき、開局した場合、防災対策の一環、高齢者や認知症予防の声かけ、地域活性化、教育のツール等で利用できる。

〔審議結果〕賛成多数 修正可決

（賛成8、反対5）

○平成27年度神川町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）

事業勘定の歳入歳出それぞれ、6,684万円追加し、総額を20億3,364万3千円とするもの。

○歳入に追加された主な項目

療養給付費交付金

▲760万1千円

前期高齢者交付金

1,774万3千円

繰入金

1,465万5千円

繰越金

4,204万3千円

○歳出に追加された主な項目

保険給付費

7,820万円

後期高齢者支援金等

▲152万7千円

前期高齢者納付金等

▲14万9千円

介護納付金

▲989万9千円

保健事業費

11万円

諸支出金

10万5千円

〔審議結果〕全員賛成 原案可決

○平成27年度神川町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）

歳入歳出それぞれ、29万6千円減額し、総額を1億1,130万円とするもの。

○歳入に追加された主な項目

繰入金 ▲40万円

繰越金 10万4千円

○歳出に追加された主な項目
後期高齢者医療広域連合納付金 ▲29万6千円

〔審議結果〕全員賛成 原案可決

○平成27年度水道事業会計補正予算（第2号）

予算第3条では水道事業収益を営業収益として、130万円追加し、水道事業費用では、営業費用を180万円追加するもの。予算第4条では資本的収入を、負担金として83万2千円追加し、資本的支出では、建設改良費を83万2千円追加するもの。

〔審議結果〕全員賛成 原案可決

契約関係

○工事請負契約の変更について

内容

神川町就業改善センター耐震補強及び太陽光設備設置工事請負契約について、7,722万円の契約金額を8,679万9,600円とするもの。

理由

新たに屋根の下地補修及び電気配線引き回し工事が必要となつたため

〔審議結果〕全員賛成 原案可決

陳情

○総務経済常任委員会

件名 矢納地内町道2-26号線・高牛橋の整備改良について

要旨 橋の欄干及び舗装整備のお願い

陳情者 矢納区長 川鍋 直人

〔審議結果〕採 択

件名 新里地内町道6416、6411号線道路の舗装整備について

要旨 未舗装道路の舗装整備のお願い

陳情者 新里区長 福島 範雄

〔審議結果〕意見書をつけて採 択

件名 元阿保地内町道1447号線道路改良工事について

要旨 道路舗装・側溝整備のお願い

陳情者 元阿保区長

〔審議結果〕採 択

件名 元阿保地内町道1458号線道路改良工事について

要旨 道路舗装・側溝整備のお願い

陳情者 元阿保区長

〔審議結果〕採 択

件名 元阿保地内町道1458号線道路改良工事について

要旨 道路舗装・側溝整備のお願い

陳情者 元阿保区長

〔審議結果〕採 択

件名 元阿保地内町道1458号線道路改良工事について

要旨 道路舗装・側溝整備のお願い

陳情者 元阿保区長

〔審議結果〕採 択

件名 元阿保地内町道1459号線道路改良工事について

要旨 道路舗装・側溝整備のお願い

陳情者 元阿保区長

〔審議結果〕採 択

件名 元阿保地内町道1459号線道路改良工事について

要旨 道路舗装・側溝整備のお願い

陳情者 元阿保区長

〔審議結果〕採 択

件名 元阿保地内町道1459号線道路改良工事について

要旨 道路舗装・側溝整備のお願い

陳情者 元阿保区長 五十嵐道太郎

〔審議結果〕採 択

件名 関口地内町道4460号線の舗装と側溝の整備について

要旨 道路舗装・側溝整備のお願い

陳情者 関口区長 進藤 誠一

〔審議結果〕採 択

件名 植竹地区消火栓設置について

要旨 植竹第3区県道西側に消火栓を増設することのお願い

陳情者 植竹本区長 高柳 周

〔審議結果〕採 択

件名 植竹地区消火栓設置について

要旨 植竹第3区県道西側に消火栓を増設することのお願い

陳情者 植竹本区長 高柳 周

〔審議結果〕採 択

件名 植竹地区消火栓設置について

要旨 植竹第3区県道西側に消火栓を増設することのお願い

陳情者 植竹本区長 高柳 周

〔審議結果〕採 択

件名 植竹地区消火栓設置について

要旨 植竹第3区県道西側に消火栓を増設することのお願い

陳情者 植竹本区長 高柳 周

〔審議結果〕採 択

件名 植竹地区消火栓設置について

要旨 植竹第3区県道西側に消火栓を増設することのお願い

陳情者 植竹本区長 高柳 周

〔審議結果〕採 択

件名 植竹地区消火栓設置について

要旨 植竹第3区県道西側に消火栓を増設することのお願い

陳情者 植竹本区長 高柳 周

〔審議結果〕採 択

件名 植竹地区消火栓設置について

要旨 植竹第3区県道西側に消火栓を増設することのお願い

陳情者 植竹本区長 高柳 周

〔審議結果〕採 択

件名 植竹地区消火栓設置について

要旨 植竹第3区県道西側に消火栓を増設することのお願い

陳情者 植竹本区長 高柳 周

〔審議結果〕採 択

件名 植竹地区消火栓設置について

要旨 植竹第3区県道西側に消火栓を増設することのお願い



陳情箇所現地調査

条例など

件 名	内 容	結果
神川町個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例	行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の規定に基づき、必要事項を定めるもの	○
神川町いじめ問題対策連絡協議会等条例	いじめ防止対策推進法の規定に基づき必要事項を定めるもの	◎
神川町特定教育・保育施設の利用者負担額等に関する条例	子ども・子育て支援法の施行に伴い、特定教育・保育施設の利用者負担額と神川町立幼稚園保育料に関する条例の一元化を図るもの	◎
神川町立神川幼稚園預かり保育料徴収条例	神川町特定教育・保育施設の利用者負担額等に関する条例の施行に伴い、従来の条例を廃止し、新たに制定するもの	◎
神川町立神川幼稚園園児専用通園バス使用料に関する条例		
神川町議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例	厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行により、共済年金が厚生年金に一元化されたことに伴い、所要の改正を行うもの	◎
神川町税条例等の一部を改正する条例	地方税の徴収等に係る猶予制度が見直され、地方税法の一部が改正されたことに伴い、所要の改正を行うもの	◎
神川町過疎対策に伴う町税(固定資産税)の課税の特例に関する条例の一部を改正する条例	過疎地域自立促進特別措置法の一部を改正する法律が施行されたことに伴い、所要の改正を行うもの	◎
神川町国民健康保険税条例及び神川町介護保険条例の一部を改正する条例	行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の規定に基づき、所要の改正を行うもの	○
指定管理者の指定について	神川町都市公園(神川ゆ〜ゆ〜ランド、水辺公園、新宿ふれあい公園)の管理について、(株)かんなの湯を指定管理者として指定するもの	○
工事請負契約の変更について	就業改善センター耐震補強及び太陽光設備設置工事契約の変更	◎
町道路線の廃止について	幅員1mで、車や歩行者の通行が見込めない道路の払い下げ	◎
町道路線の変更について	行き止まりで車、歩行者の通行が見込めない道路の払い下げ	◎

審議結果 ☒ 全員賛成 ☐ 賛成多数

意見書の提出

地方単独事業にかかる「国民健康保険国庫負担金」の減額調整措置の見直しを求める意見書

先の国会において「持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法律」が成立し、国保の財政基盤の強化や都道府県による財政運営に向けて具体的な改革作業が始まったところである。

国保改革に当たっては、国と地方の協議により、地方単独事業に係る国庫負担調整措置の見直しなどが今後の検討課題とされたところである。

一方、地方創生の観点から人口減少問題に真正面から取り組むことが求められており、全国の自治体では単独事業として乳幼児医療費の助成制度の拡充などに取り組む事例が多く見られる。

さらに平成26年度補正予算で用意された国の交付金を活用し、子ども医療費の対象年齢の引き上げなどの事業内容の拡充に取り組む自治体も報告されているところである。

こうした状況の中で、すべての自治体で取り組まれている乳幼児医療費の助成制度など、単独の医療費助成制度に対する国の減額調整措置について、下記のとおり早急に見直しを行うよう強く要請する。

記

1. 人口減少問題に取り組む、いわゆる地方創生作業が進む中、地方単独事業による子ども等に係る医療費助成と国保の国庫負担金の減額調整措置の在り方について、早急に検討の場を設け、見直しを行い結論を出すこと。

2. 検討に当たっては、少子高齢化が進行する中、子育て支援、地方創生、地域包括ケア等の幅広い観点から事業性のある施策を進めることが必要であり、そうした観点から子ども等に係る医療の支援策を総合的に検討すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する

平成27年12月16日

神川町議会

内閣総理大臣	殿	厚生労働大臣	殿
財務大臣	殿	総務大臣	殿

議員研修で福島県「ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会」を視察

11月10日(火)議員13名の参加により福島県二本松市にある東和ふるさとづくり協議会を視察しました。東和地区は、人口約6,700人あまりの山間地域で、平成17年の合併時には限界集落として二本松市から置き去りにされそうな危機的状態にありました。そのような状況から7名の地元農業者が集まり、全国から「田舎暮らし希望者」「農業就業希望者」を募り、1年間の民泊体験により、作物の栽培から加工、販売等まで親切に指導し、生活として成り立つ「農業」を確立しました。このような実績が実り現在も若者の移住者が年々増えています。ここに暮らす人々は行政に頼らず、伝統文化の継承や疾病予防、健康づくり、日本型食生活の普及などを自らの力で進めています。その堅実なコミュニティー活動が功を奏し、今や全国から注目を集める地域になっています。



「道の駅東和」



「研修風景」

児玉郡町議会議長会で東日本大震災被災地を視察

児玉郡内の正副議長で構成された児玉郡町議会議長会(小井戸英夫会長)は、昨年の11月16日(月)と17日(火)に、岩手県陸前高田市と宮城県南三陸町を訪問し、東日本大震災からの復興状況を視察しました。現地では、現在約8mの堤防が建設され、まち並の再生準備が進んでいました。しかし、今も尚、所々に一瞬にしてまちを飲み込んだ津波の恐ろしさが残っていました。海面から約15mの高台にある南三陸町志津川小学校では、多くの人が避難しながら、想定を超える20mの高波にのまれてしまった爪痕が残り、想像を絶する光景でした。最後に現地ガイドの方が、「堤防は50年に1度の地震による津波を想定して造成された」との説明がありました。



「志津川小から海を望む」

11月



1日 神川町消防団特別点検
6日 税制改正要望(本庄法人会)
8日 議会運営委員会
豊稔まつり2015

1日 定例全員協議会
3日 運動会(神川幼稚園・青柳保育所・丹莊保育所)
11日 町民体育祭
15日 児玉郡市防火安全協会60周年記念式典
17日 本庄地方地域安全大会
ハートフルデイ2015
18日 コスモスまつり
20日 県議長会議員研修会(吉見町フレサよしみ)
23日 総合計画審議会
25日 冬桜まつり
28日 旧議員倶楽部視察研修(荒川知水資料館)
30日 定例全員協議会
31日 神川町合併10周年記念式典
町民文化祭

10月



議会日誌

12月



9日 県議長会役員会
10日 視察研修(福島県二本松市他)
12日 庁舎建設検討委員会
14日 ジャズコンサート
16日 郡議長会視察研修(宮城県南三陸町他)
18日 斎場運営委員会
20日 総合計画審議会
21日 本庄市合併10周年記念式典
25日 議会運営委員会
1日 定例全員協議会
2日 冬の交通事故防止キャンペーン
5日 神川幼稚園生活発表会
かみかわクリスマスイルミネーション2015点灯式
6日 ステラ神泉まつり
8日 第7回定例議会(一般質問等)
9日 庁舎建設検討委員会
11日 総務経済常任委員会
16日 文教厚生常任委員会
第7回定例議会(条例、補正予算等審議)
18日 総合計画審議会
19日 塙保己一賞表彰式(本庄市セイルデイ)
20日 上里スマートインター開通式
21日 広域圏議会
24日 国道254号線バイパス建設期成同盟会設立総会